

講義名	観光施設計画論			授業形態	
担当教員	山川 拓也	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

一般的に観光地と見なされないローカルな日常生活区域内で「観光としての人的な交流を創出すること」を計画・実施しようとする時、そこで必要とされる視点・機能・アクションは何か、この問いへの答えを見出すには、観光の実体・実相をステレオタイプのイメージ化されたレンズで認識するのではなく、これまでと異なるレンズで視野広く捉えていくことが何よりも重要である。観光施設といえは、主には観光スポットにある観光客に向けてのたがかりな集客施設等をイメージされるかもしれない。もちろんそれも立派な観光施設であることに間違いないが、非観光地であるローカルな日常生活区域内に同様の観光施設を新築することは様々な面から現実的とは言えず、知恵を絞って考える必要がある。

そこで本科目は、地元に関つて活動されている方による特別講義や現地フィールドワークおよび議論・発表といったアクティブ・ラーニング（能動的学修）の要素を取り入れながら、Community Based Tourism (CBT: 地域主体・地域融合による観光)の観点から、地元の日常生活区域内にある既存生活施設（＝非観光施設）が潜在的に有している観光施設としての利用可能性を議論することから始める。そして、共有された観点・認識による更なる議論のもと、非観光地であるローカルな日常生活区域内での持続可能性に配慮した観光マーケティング戦略としての「新しいタイプの観光施設の創造的計画」と「新しいタイプの観光施設を媒介とした観光としての人的交流の創出」に関する理解を深めていく。

到達目標

本科目の到達目標を以下に示す。
Community Based Tourism（地域主体・地域融合による観光）に関する基本事項を理解できるようになる。
地域資源の有機的な結合や地域内の連携等による観光施設計画や観光マーケティングの在り方に関して、自らの考えによる提案や提言類を表現し、論理的に説明できるようになる。

提出課題

毎回の受講後に提出を求める「ミニッツ・ペーパー」（responで実施）、グループワークによるプレゼンテーション資料（power point 2回分、その他）
期末レポート（詳細については授業中に説明する）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「ミニッツ・ペーパー」の記述内容で解説を加える必要を認められたものは、授業内で適宜フィードバックをおこなう。

評価の基準

下記による総合評価とする。
グループワーク成果物（取り組みにおけるテーマ・課題への理解に基づく内容を評価する）：50％
期末レポート（教科書となる書籍の内容に沿った形で出題し、それに対する論述を評価する）：50％
【重要】
* フィールドワークを1回でも欠席した者については、いかなる理由においても単位を認定しない。（失格/E）
*（ただし、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生への対応については別途定める）
* 累積の欠席回数が5回以上（5回を含む）になった場合、評価を受ける資格がなくなる。（失格/E）
* 遅刻（時間の長短を問わない）は、2回で1回の欠席としてカウントする。
* 受講後の「ミニッツ・ペーパー」の提出がない場合、教室に居た者であっても当日の出席は無効とする。
* スマホ等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。
* の期末レポートに対する評価指標の基本は、本シラバスに添付の「コンモルブリック」に基づく。

履修にあたっての注意・助言他

- ・受講の前提として「観光文化論/文化観光論」「観光地理学」を受講していることが望ましい。
- ・授業の多くを「対面グループワーク形式」で進めることから、各自の責任ある取り組みが必須となる。
- ・対面グループワーク形式を苦手とする（あるいは希望しない）学生には、本科目の履修を勧めない。

【学外フィールドワークについて】

- ・1回目を10/15（土）、2回目を11/5（土）に予定している。（現地集合・現地解散）
- ・到達目標の観点から、フィールドワークへの参加は必須とする。（不参加の場合は単位不認定となる）
- ・フィールドワークの移動交通費、現地での体験アクティビティ費（1000円程度～実費）は、学生の負担となる。
- ・フィールドワークの実施要項については、1回目のガイダンス時に説明するので必ず出席すること。

教科書

「グストハウスがまちを変える：エリアの価値を高めるローカルビジネス」	渡邊崇志・前田有佳利	学芸出版社	2630	9784761528140
------------------------------------	------------	-------	------	---------------

参考図書

「まちの魅力を引き出す編み方：地域の「面白さ」を発掘して、観光商品化のプロデュース」	桜井篤	同友館	1760	9784496055416
「ご近所 半日旅 - いちばん気軽な「新しい旅」のスタイル」	吉田友和	ワニブックス	935	9784847066573

その他

プリント資料：講義形式の際には、講義レジュメや資料類を必要に応じて配布する。

授業計画

【講義】受講者ガイダンス、科目の主題・取り組みテーマに関する背景概説（「観光」の進化）
【講義】概念としての『コミュニティ・ベースド・ツーリズム（Community Based Tourism：CBT）』
【講義】宿づくりを核に全国レベルでC B Tに取り組む（株）宿場JAPANの事例
【講義・演習】グループワークならびにフィールドワークの説明・チーム分け、第一課題の提示と内容説明
【講義】地元・神戸市でC B Tに取り組む「神戸グストハウス萬家」（朴徹雄氏：予定）による特別講義
【実習】水道筋商店街および灘中央市場周辺（神戸・灘区）での学外フィールドワーク
は同日（10/15・土曜日）の午前～夕方（終日）で実施予定
【演習】フィールドワーク結果の情報整理と資料（power point）作成
【演習】第一課題に対する成果発表（チーム毎のプレゼンテーション）
【講義・演習】第一課題の取り組みに対する講評・振り返り、第二課題の提示と内容説明
【講義】兵庫県尼崎市でCBTに取り組む「尼崎南部再生研究室」（若狭健作氏：予定）による特別講義
【実習】抗瀬商店街および抗瀬中市場周辺（尼崎市）での学外フィールドワーク
は同日（11/5・土曜日）の午前～夕方（終日）で実施予定
【演習】フィールドワーク結果の情報整理とチーム内検討
【演習】プレゼンテーション用資料（power point）作成
【演習】第二課題に対する成果発表（チーム毎のプレゼンテーション）
【講義・演習】第二課題の取り組みに対する講評・振り返り、科目としての全体まとめと総括

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> W：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> E：グループワーク
<input type="radio"/> O：プレゼンテーション	<input type="radio"/> K：実習、フィールドワーク
* その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（予習：60分/回）「コミュニティ・ベースド・ツーリズム」「観光まちづくり」等に関連するメディア記事や文献等の情報を収集し、授業に向けた予習に努める。
（復習：60分/回）授業の内容（特に理論の説明）を整理し、周辺事例と照らし合わせるなどして理解に努める。
*またグループ課題等への取り組み時間として、授業前後で各3時間ずつの時間を確保して準備に努める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目の目標に到達することは、現代観光における事象を理解する上で必要となる知識を修得して(目標)、観光や地域に関するマーケティングやマネジメントといった事柄への連続性・発展性をもって分析・考察できるようになる(目標)ことであり、本学ならびに学部・学科が定めるDP（卒業認定・学位授与の方針）と関連する。
・本科目の主題と概要に具体的に書き示したような「観光における財やサービスの流通構造の変化に対する理解を深める」ことにより、本学ならびに学部・学科が定めるDPに貢献する。
・到達目標 の達成により、学科共通DPにある「観光事業の仕組みや経営構造を把握、理解する思考力」「課題解決や新たな価値を自ら作り出す想像力と提案力」の涵養に貢献する。
・到達目標 を達成することは、コースDPにある「旅行業、交通運輸業あるいは自治体や地域の観光団体での就業に必要な知識や技術の修得」「課題を解決し、修得した知識や技術を実践すること」に貢献する。
・到達目標 を達成することは、コースDPにある「自ら考える力を発揮し、観光地づくりや観光ビジネスに係わる新たな取り組みへの提案を行うこと」に貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・グループワーク実施時、教員は助言や各グループとの意見交換等を実施し、双方向性の確保に努める。
- ・毎授業後に実施する「ミニッツ・ペーパー」等の課題への取り組みにおいては、respon等のICTを活用する。
- ・必要に応じて授業中でもresponを使用し、意見収集等を行うことがある。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
旅行業および旅行サービス手配業の実務経験（欧州を中心とする海外団体旅行の企画・運営・添乗・海外駐在、市場戦略策定）で得た知識・知見を活用しつつ、本科目の目標に学生が到達できるように努める。

備考

- ・本科目は「定員設定科目」（選考有）につき、受講希望に際しては教務部の指示に従って申請すること。
- ・新型コロナウイルスの感染状況ならびに科目の進捗状況等によって授業方法や内容を変更する場合があります。その際には事前に告知する。
- ・学外フィールドワークについて、受け入れ先の都合等により変更や中止となる場合がある。その場合、授業計画を見直したうえで代替案を提示する。